

令和2年9月2日

第2回次期水源地域交流の里づくり計画検討委員会
資料(追加分)

目次

| | | |
|------------------------------|---|---|
| 次第 | … | 1 |
| 出席者名簿 | … | 3 |
| 座席表 | … | 5 |
| 追加資料 次期水源地域交流の里づくり計画(骨子案)の概要 | … | 7 |

第2回次期水源地域交流の里づくり計画検討委員会 次第

令和2年9月2日(水) 14時00分～16時00分
あつぎ市民交流プラザ ルーム601

1 報告

第1回検討委員会の開催結果について

2 議題

次期水源地域交流の里づくり計画の骨子案について

第2回水源地域交流の里づくり計画検討委員会出席者名簿

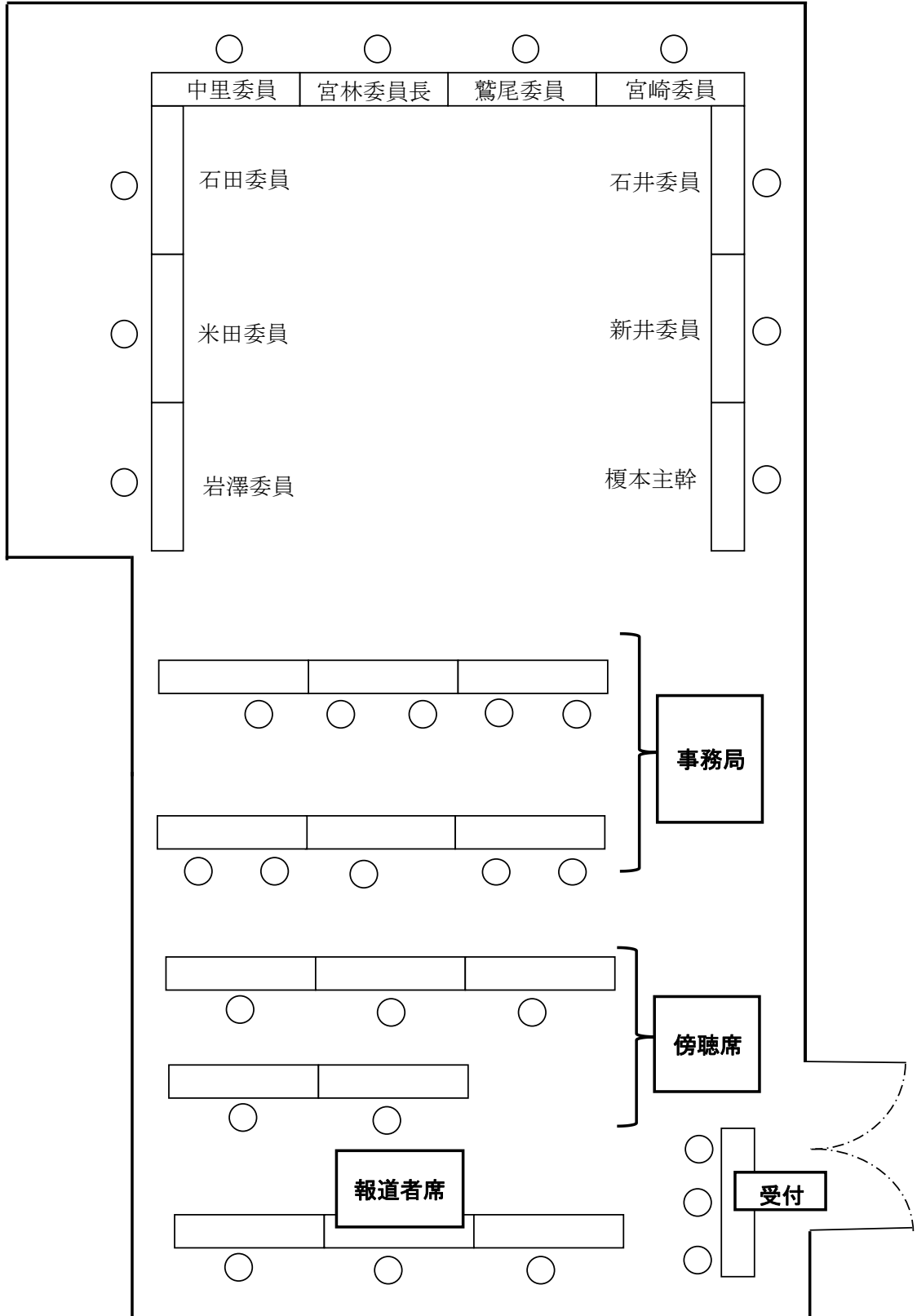
(1) 委員

| | 氏名 | 御所属等 | 出欠 |
|----|------------------------------------|------------------------|-------------------|
| 1 | みやばやし 宮林 茂幸 <small>しげゆき</small> | 東京農業大学地域環境科学部教授 | 出席 |
| 2 | わしお 鷺尾 裕子 <small>ゆうこ</small> | 松蔭大学観光メディア文化学部准教授 | 出席 |
| 3 | なかざと 中里 正巳 <small>まさみ</small> | (一社)相模湖観光協会事務局長 | 出席 |
| 4 | いしだ 石田 貴久 <small>たかひさ</small> | 山北町森林組合職員 | 出席 |
| 5 | よねた 米田 博行 <small>ひろゆき</small> | 芳雅美術工芸代表 | 出席 |
| 6 | いわさわ 岩澤 克美 <small>かつみ</small> | NPO法人「結の樹 よってけし」理事長 | 出席 |
| 7 | みやざき 宮崎 仁男 <small>よしお</small> | (公財)宮ヶ瀬ダム周辺振興財団常務理事 | 出席 |
| 8 | いしい 石井 千春 <small>ちはる</small> | 相模原市緑区役所城山まちづくりセンター所長 | 出席 |
| 9 | あらい 新井 武雄 <small>たけお</small> | 相模原市緑区役所相模湖まちづくりセンター所長 | 出席 |
| 10 | いなば 稲葉 展史 <small>のぶみ</small> | 山北町農林課長 | 欠席 |
| 11 | さいとう 齋藤 伸介 <small>しんすけ</small> | 愛川町環境経済部商工観光課長 | 代理出席 ¹ |
| 12 | おりた 折田 克也 <small>かつや</small> | 清川村産業観光課長 | 欠席 |

※1 愛川町環境経済部商工観光課 榎本 秀幸 専任主幹が代理出席。

第2回次期水源地域交流の里づくり計画検討委員会 座席表

日時:令和2年9月2日 14:00~16:00
場所:厚木市民交流プラザ ルーム601

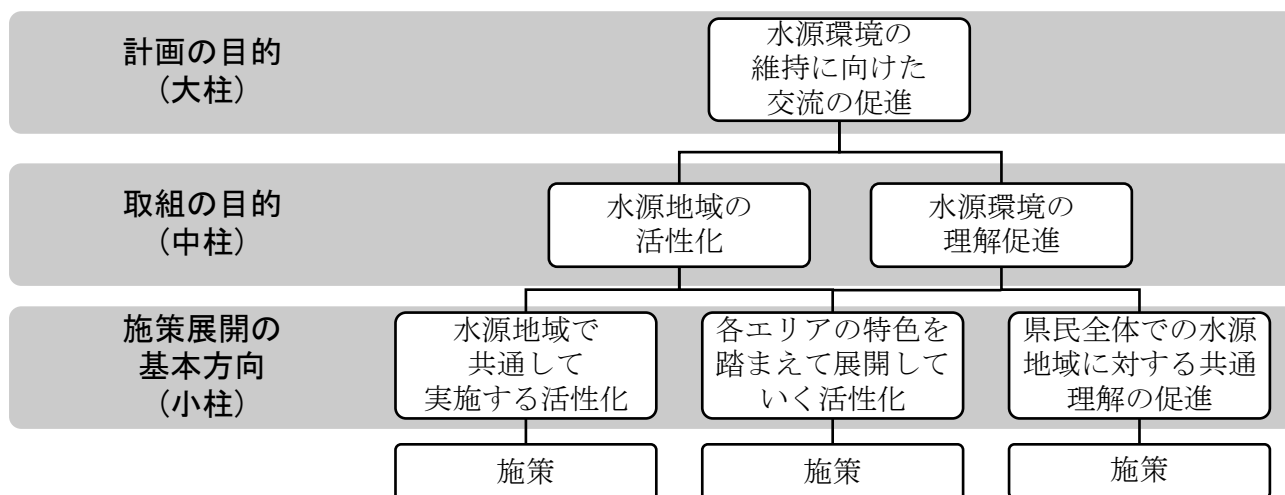


次期水源地域交流の里づくり計画(骨子案)の概要

令和2年9月2日
神奈川県政策局政策部
土地水資源対策課

1 次期計画の構成

最初に計画の目的(大柱)を示し、順に取組の目的(中柱)、施策展開の方向性(小柱)と体系的に整理したうえで、これらを踏まえた具体的な取組を「施策」として位置付ける。



(1) 計画の目的(大柱)

水源環境を良好な状態で維持していくために水源地域における地元住民と来訪者の交流の促進という面から取組を進めていく。

(2) 取組の目的(中柱)

ア 水源地域の活性化

水源地域住民と都市地域住民が「連携・協働」して、水源地域の魅力を発信していくことを目指す。

イ 水源環境の理解促進

水源地域住民と都市地域住民の「連携・協働」に資するように、水源地域住民と都市地域住民が水源地域に対する共通の理解を深め、認識を共有することを目指す。

(3) 施策展開の基本方向(小柱)

ア 水源地域で共通して実施する活性化

水源地域の魅力の発信を促していくとともに、都市地域住民が積極的に参加していく仕組みづくりを進め、連携・協働に向けた体制の整備を進める。

イ 各エリアの特色を踏まえて展開していく活性化

水源地域を新たに3つのエリアに整理し、各エリアの特色から新たな魅力を発掘し、発信する施策を進める。

イ 県民全体での水源地域に対する共通理解の促進

水源地域における体験を通して、都市地域住民と水源地域住民等交流を進めていくことにより、県民全体で水源地域に対する共通理解を醸成していく施策を進める。

(4) 具体的な施策(施策体系)

「連携・協働に向けた仕組みづくり」や「各エリアの特色を踏まえた地域づくり」といった新たな施策や、現行計画における一部の施策の集約により、計8つの施策を実施していく(詳細は、別紙1及び別紙2のとおり)。

2 次期計画において考慮する要素

- SDG sの趣旨を踏まえて取組を実施する。
- 広域自治体である県と基礎自治体としての市町村が適切な連携と役割分担のもとに取組を実施する。
- 関係する県の計画(総合計画、かながわSDG s取組方針、かながわ水源環境保全・再生施策大綱など)踏まえながら取組を実施する。
- NPO、企業、大学等との連携・協働を図る。

3 計画期間

2021(令和3)年度から2025(令和7)年度まで(5年間)

4 効果検証

水源地域への交流人口(水源地域への来訪者数)に目標値を設定し、効果検証を行う。また、効果検証のために、有識者等で構成する「フォローアップ会議」を設置する。

5 実施体制

国、自治体及び関係団体で構成された「水源地域交流の里づくり推進協議会」が中心となって施策を実施し、水源地域における地元住民と来訪者の「交流」の促進に向けて水源地域住民と都市地域住民の連携・協働を支援していく。

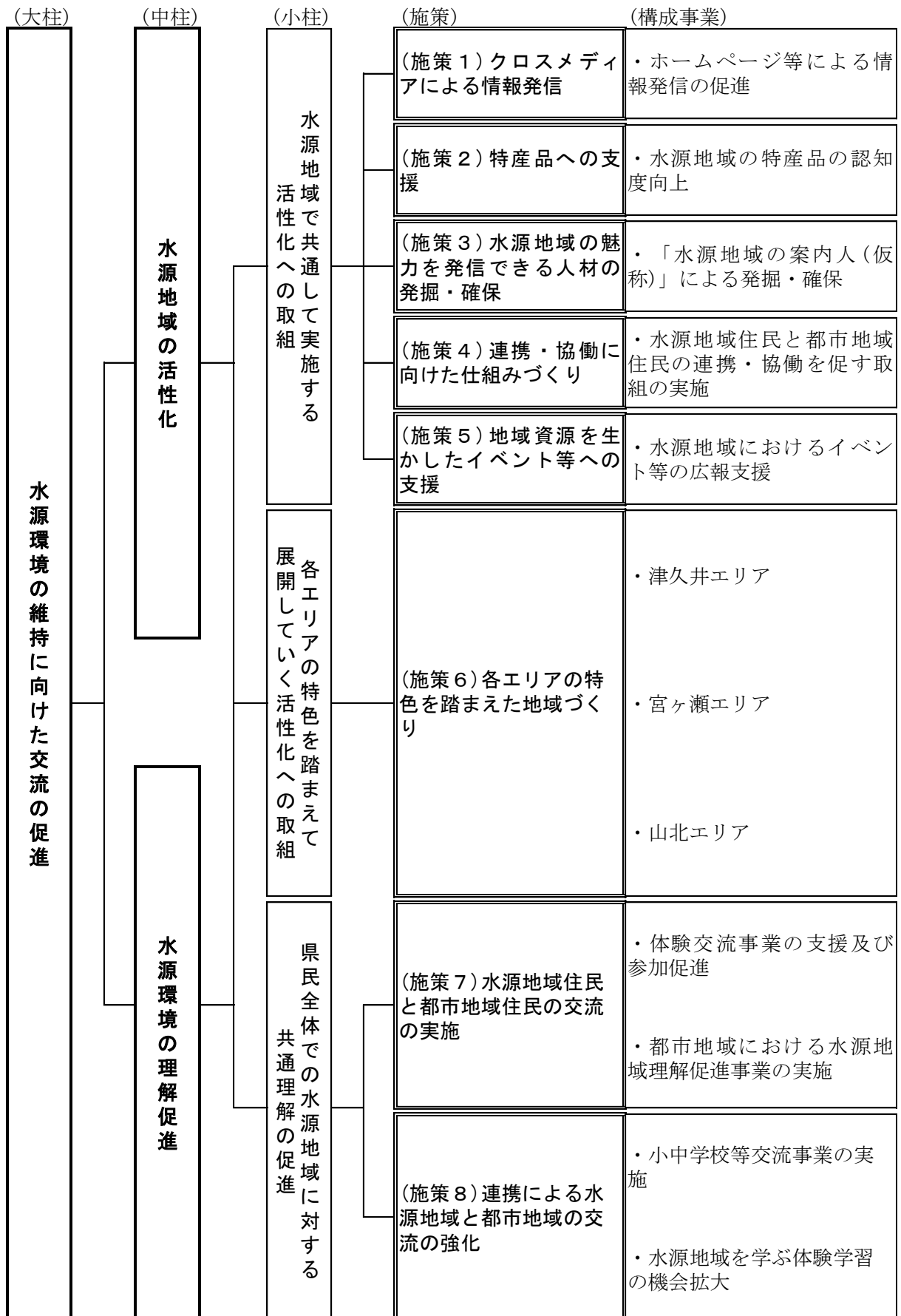
【(参考) 各エリアの特色を踏まえて展開していく活性化におけるエリア区分】

現行計画では、施策展開とエリア設定の基礎を「交流の里」を中心としたエリアとしているが、次期計画では、津久井エリア、宮ヶ瀬エリア、山北エリアの3エリアに新たに整理して、施策展開を図る。

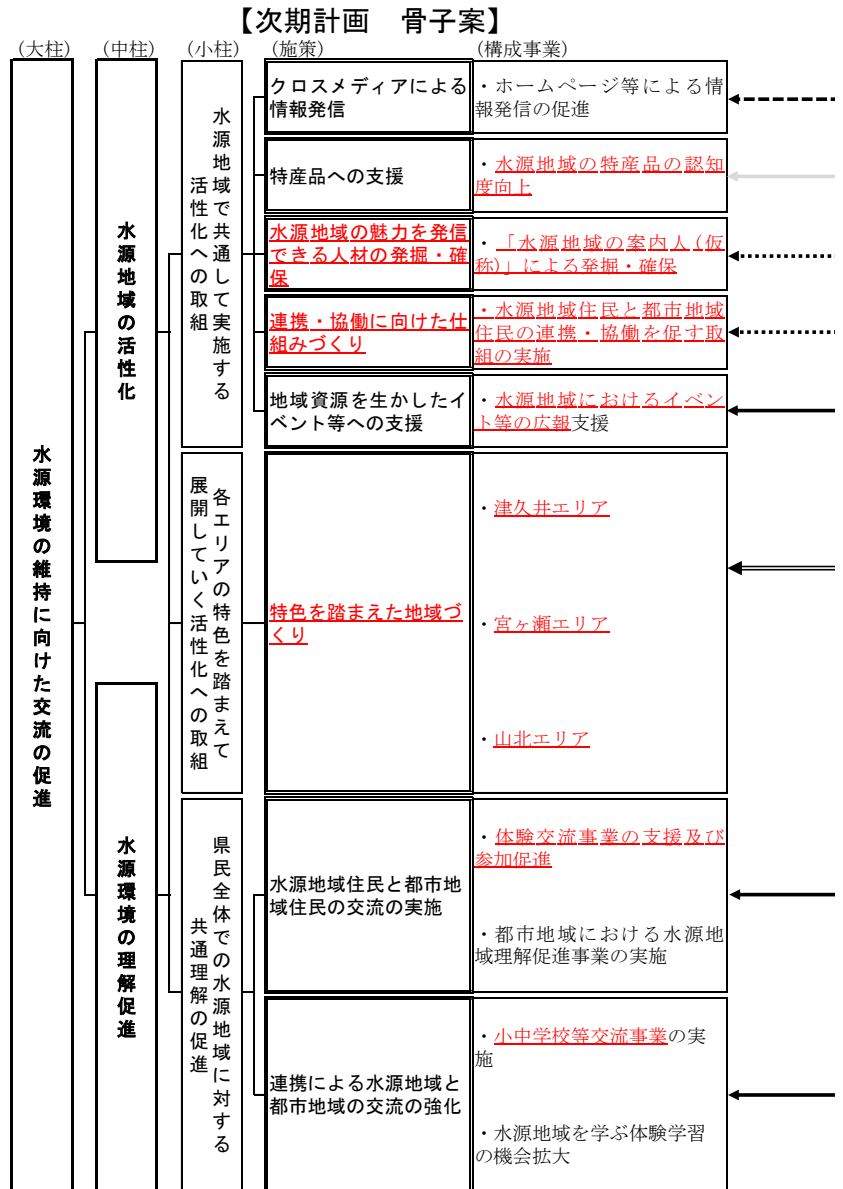
- 津久井エリア： 相模原市の城山地区、津久井地区※、相模湖地区及び藤野地区
- 宮ヶ瀬エリア： 相模原市の津久井地区※、愛川町、清川村
- 山北エリア： 山北町

※ 津久井地区は、「津久井エリア」と「宮ヶ瀬エリア」で重複する。

(別紙1) 次期計画骨子案に係る体系図



(別紙2) 次期計画と現行計画の関係図



(計画の基本的な考え方)

修正

【現行計画 体系図】

